

九月一日より倫理法人会の平成二十四年度がスタートしました。全国七〇二カ所の倫理法人会で、約一万六千名余りの方に「会のお世話役」である役職を引き受けていただきました。経営環境の厳しい中、また諸事情のある中であって役職を受けていただきましたことに、心より感謝申し上げます。日本創生に向けて邁進する倫理法人会にとつて、その牽引役となる役員姿勢はとて重要です。会長の思いをしつかりと受け止め、その方針に則って全役員が心ひとつに諸活動を展開していくことが、会の充実・発展を生み出します。

また我を出さず純情（すなお）な気持ちで、会長の指示したことをそのまま実践した時に、自らも大きく成長していくことができます。この一年間の取り組みを通じ、全役員の方が「役得」（役員をやらせていただいでよかった）を体験していただきたいと願っています。そのため的心構えを申し上げておきたいと思えます。

一、役を知る

それぞれの立場、職務を正しく理解しましょう（詳細は『倫理法人会規定・役員必携』を参照）。自分自身がどのような立場で何を為すべきなのか理解できていなければ話になりません。立場の自覚は責任感につながります。責任を自覚するからこそ、その職務も全うしていくことができます。「そんなことは初めて聞いた」「そんなことを誰が決めたんだ」「急に言われてもそんなことは無理」というような発言が飛び出すことのないよう、『倫理法人会規定・役員必携』を熟読してください。



## 役を知り 役に徹し 役を越えない

### 二、役に徹する

立場や職務を十分に理解した後は、その役に徹底して取り組むことです。中途半端な取り組みをしていたのでは、自分自身は何も変わりませんし、会としての成果も上がりません。徹するとは思いを込めることであり、惚れ込むことです。A会長は「経営者モーニングセミナー」の会長挨拶には必ずレジュメを準備し、それに沿って話を進めます。B専任幹事は毎日三人の人に純粹倫理を語り伝えていきます。Cモーニングセミナー委員長は、毎週「役員朝礼」「経営者モーニングセミナー」のりハーサルを徹底して行ないます。それらは参加者に感動を与えたいという、ほとぼしる思いからです。それぞれに熱き思いがあるからこそできる実践でしょう。

### 三、役を越えない

役を越えないとは、それぞれの領分を侵さないことです。要は出過ぎないこと。出過ぎると相手のやる気を奪ったり、トラブルの元となります。人のことを気にする前に、まず己の本分を全うしましょう。

倫理法人会の役職は個人のステータスではありません。むしろ自分をいかに磨き高めていくかというところに大きな意義があります。また役職をいただいたということは、両親をはじめ先祖の徳のお陰という一面もあります。両親や先祖に喜んでいただける喜びの働きこそ、最高のご恩返しではないでしょうか。

「日本創生 企業に倫理を 職場に心を 家庭に愛を 希望の明日（あした）を切り拓こう」のスローガンのもと、自他共に喜び合える世界を築いてまいります。

絵・わたなべじゅんじ